

2000年4月から2023年3月までに産業医科大学病院にて
アトピー性皮膚炎、乾癬、円形脱毛症、蕁麻疹、好酸球性膿疱性毛包炎と
診断された患者さんへのお知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和3年3月23日制定 令和3年6月30日施行）」により、対象となる患者さんのお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

炎症性皮膚疾患における IL-31 と S100A2 発現の検討

2. 研究期間

研究機関の長の許可日～2028年3月31日

3. 研究機関

産業医科大学病院

4. 研究責任者

産業医科大学医学部皮膚科学 教授 澤田 雄宇

5. 研究の目的と意義

炎症性皮膚疾患は現在様々な治療が開発されていますが、十分な治療効果が出ていない方が多数おり、未だ不明メカニズムがあることが想定されています。S100A2 タンパク質は皮膚に多く存在しており、それが皮膚を掻くことで破壊された皮膚の細胞から放出され、免疫細胞が活性化することで炎症が悪くなると考えられています。掻痒を生じる物質として IL-31 が知られており、IL-31 により皮膚のかゆみが悪くなることで、皮膚を掻き、破壊された角化細胞から遊離した S100A2 が炎症を増悪することが考えられていますが、IL-31 と S100A2 の関連性は未だ不明です。

[目的]

この研究では、炎症性皮膚疾患における S100A2 ならびに IL-31 の発現と皮膚炎の重症度との関連性を評価することで、掻破行為が皮膚炎を悪くするメカニズムの1つ

を解明することを目的としています。

[意義]

この研究を行うことで、今まで考えられていた搔破行為が皮膚炎を悪くするメカニズムを解明でき、新しい治療法の開発が見込まれます。

6. 研究の方法

本研究は過去に産業医科大学皮膚科で診療を行った患者カルテを調査すること、ならびに診療上取得・保管してある組織を研究のために利用し、診断目的に採取した皮膚組織における S100A2 と IL-31 の発現を免疫組織学的に解析することを通して、S100A2 と IL-31 の発現が病気とどの程度関連しているのか明らかにする事を目的とし、10年間または死亡するまでの追跡研究を行います。皮膚炎における S100A2 と IL-31 の発現の程度の違いの情報に加え、皮膚内に浸潤している免疫細胞を評価する為、CD4、CD8、IL-17 を発現している細胞数を比べます。さらに、皮膚疾患の患者情報として、年齢、性別、身長、体重、既往歴、血液検査のデータ(白血球、赤血球、血小板、アルブミン、CRP、BUN、クレアチニン、AST、ALT、ナトリウム、カリウム、Thymus and Activation-Regulated Chemokine (TARC)、IgE)を入手し、解析を行います。

7. 個人情報の取り扱い

個人情報は、カルテや試料の整理簿から、住所、氏名、生年月日を削り、代わりに新しく符号をつけ、研究責任者が管理し、個人情報の漏洩を防止します。この研究で得られたデータは、研究終了後5年間もしくは当該研究の結果の最終の公表について報告された日から3年間のいずれか遅い日まで保存された後、全て廃棄します。その際には研究責任者の管理の下、個人を特定することができないように加工(匿名化)したことを確認し、情報は復元できないよう消去し、試料は医療廃棄物として廃棄する等、個人情報が外部に漏れないように対処します。また同意が撤回された場合には、その時点までに得られたデータや試料を、同様の措置で廃棄します。

8. 問い合わせ先

産業医科大学医学部皮膚科学講座 澤田 雄宇
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1 電話番号 093-691-7445

9. その他

研究への参加に対する直接的な利益はありません。また、費用の負担や謝礼もありません。この研究は一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。